令和5年度　環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：㈱地域価値協創システム

活動地域　：北海道美幌町と周辺自治体

活動におけるテーマ

『製炭による、捨てない経済循環と働きやすいシステムづくり』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

〇団体の紹介

1. 北海道オホーツク地域の8NPO法人が共同出資して設立した株式会社
2. 地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成しつつ、持続可能な地域づくりを目指すことを目的とする。

〇地域の紹介

1. 北海道オホーツク地域の自治体では、人口減少、高齢化の進捗に伴い、後継者不在による廃業や、住民サービスや環境保全活動を担ってきた法人、団体の運営に支障がでるケースが増加している。その結果、地域まちづくり活動の停滞など地域活力が目に見えて低下してきている。住民生活・地域環境の維持にも影響が出てきている。

2. 地域の主産業である1次産業では経営の大規模化が進み、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

資源を活かし経済を地域で循環させ多様な人が安心して働き暮らせる地域

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

〇各種バイオマス資源を利用した製炭による新たな環境保全ビジネスの創出

〇プラットフォームを構築するための地域の他団体等と連携した研修会、ワークショップ等の定期的開催によるSDGs、脱炭素への理解度向上

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

①環境事業
　バイオ炭製炭事業に関連する商品・サービス開発
②観光事業
　炭フェス、炭カフェの開催、環境学習ツアー
③教育事業
　ローカルSDGs教室開催

現時点の地域版マンダラ

＜私たちのありたい未来の地域像＞

資源を活かし経済を地域で循環させ多様な人が安心して働き暮らせる地域

【期待する成果】

脱炭素社会

- エネルギーの地産地消
- 日常生活の脱炭素化

循環経済

- バイオ炭の購入・協力者増
- 余剰物の再資源化
- Ｊ－クレジット創出
- バイオ炭の用途拡大
- 多様な働き手確保
- 様々な商品・サービスの地産地消
- 地域内外のネットワークづくり

分散型自然共生

- SDGsへの関心度UP
- 将来の担い手育成
- 地域資源の再認識

【事業】

【バイオ炭　製炭事業】

環　境　事　業

- J-クレジット創出
- 農業、建築資材開発
- 脱炭素パネル展

観　光　事　業

- エコツーリズム
- 炭フェス、炭カフェの開催
- キッチンカーによる商品紹介
- バイオ炭商品体験

教　育　事　業

〈ローカルSDGs教室の開催〉
環境と経済の理解を深める
対象者…中高生、地域住民、企業関係者

※ステークホルダー

北海道開発局	北海道農政事務所
林産試験場	美幌町役場
商工会議所	金融機関
農業・林業者	北見NPOサポートセンター

フリースクール	教育委員会
寺子屋	中学・高校
	商工会議所

【課題】

○多様な人が働ける場の確保
　障がい者・就労条件に制約のある子育て世代

○大量の未利用資源の有効化
　間伐材・出荷できない農産物の付加価値化

【資源】

○人的資源
　福祉・子育て世代の就労希望者がいる
○物的資源
　未利用の木質バイオマス資源
　規格外野菜・農業残差物
○情報資源
　オホーツク地域の観光地イメージ
　北海道ブランドの食材が豊富

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して解決したい地域の課題

1. 多様な人たちが働ける職場づくりによる新たな労働力確保

2. 未利用、捨てられる資源を活かした環境保全ビジネス創出

地域のありたい未来

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域外部のつながりも活かす仕組みをつくり、多様な人たちが理念を共有しつつ、主体的に行動し、民間主導で地域課題を解決していく地域社会

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

＜コアメンバーの持つ活動実績、ネットワークを束ね、融合させた地域プラットフォーム形成を目指す＞

①製炭事業を環境保全ビジネスとして育て、障がい者雇用の柱とし、その過程でSDGsの考えを広めていく。

②自治体、国、道の出先機関等、商工会議所、農林事業者、金融機関等との密な連携を可能にする発信力を持つ。

③地域内外の専門家とのネットワークを充実させ、内部循環経済に外部経済の力が加わる仕組みを構築する。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

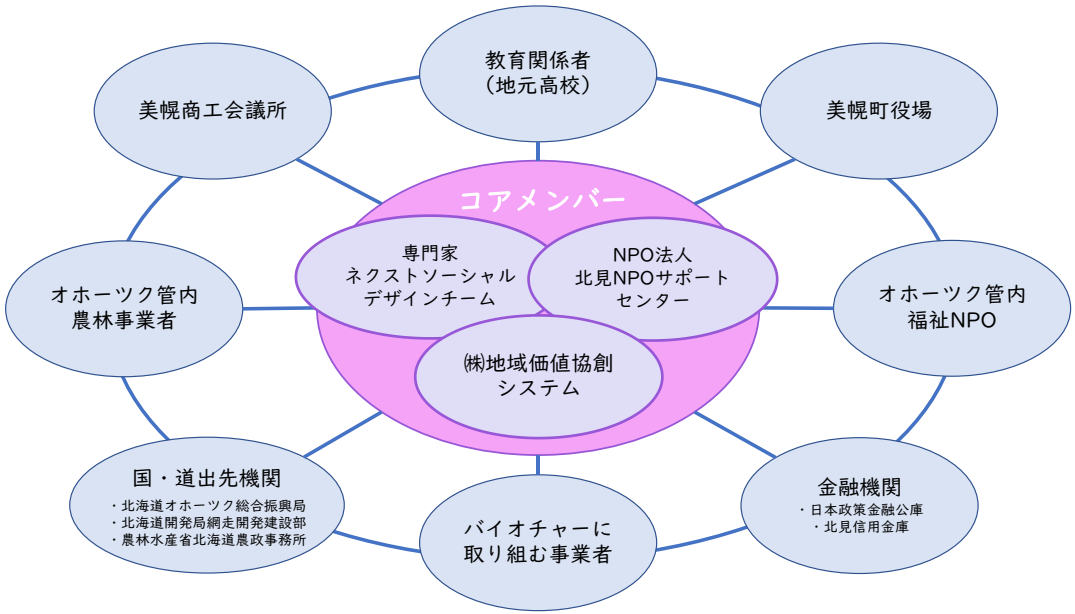
◎人的資源：①障がい就労希望者（200人程度） ②就労条件に制約がある子育て世代

◎物的資源：①黒字なのに後継者不在で廃業する小規模事業者 ②大量の農業残差物 ③小規模林業者生産・未利用木質バイオマス資源 ④工事、環境保全活動に伴い発生するバイオマス資源

◎情報資源：①オホーツク地域の観光地イメージ ②1次産業生産物の北海道ブランド

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月　1年後の地域プラットフォームのイメージ



連携した社会福祉NPOが核となり、製炭事業を障がい者就労目的の環境保全ビジネスとして確立し、地元の未利用資源を活用した、ブランド力のある事業として、担い手の育成を進めながら、育てていくプラットホームを目指しています。

←新たに加わってほしいSH（ステークホルダー）

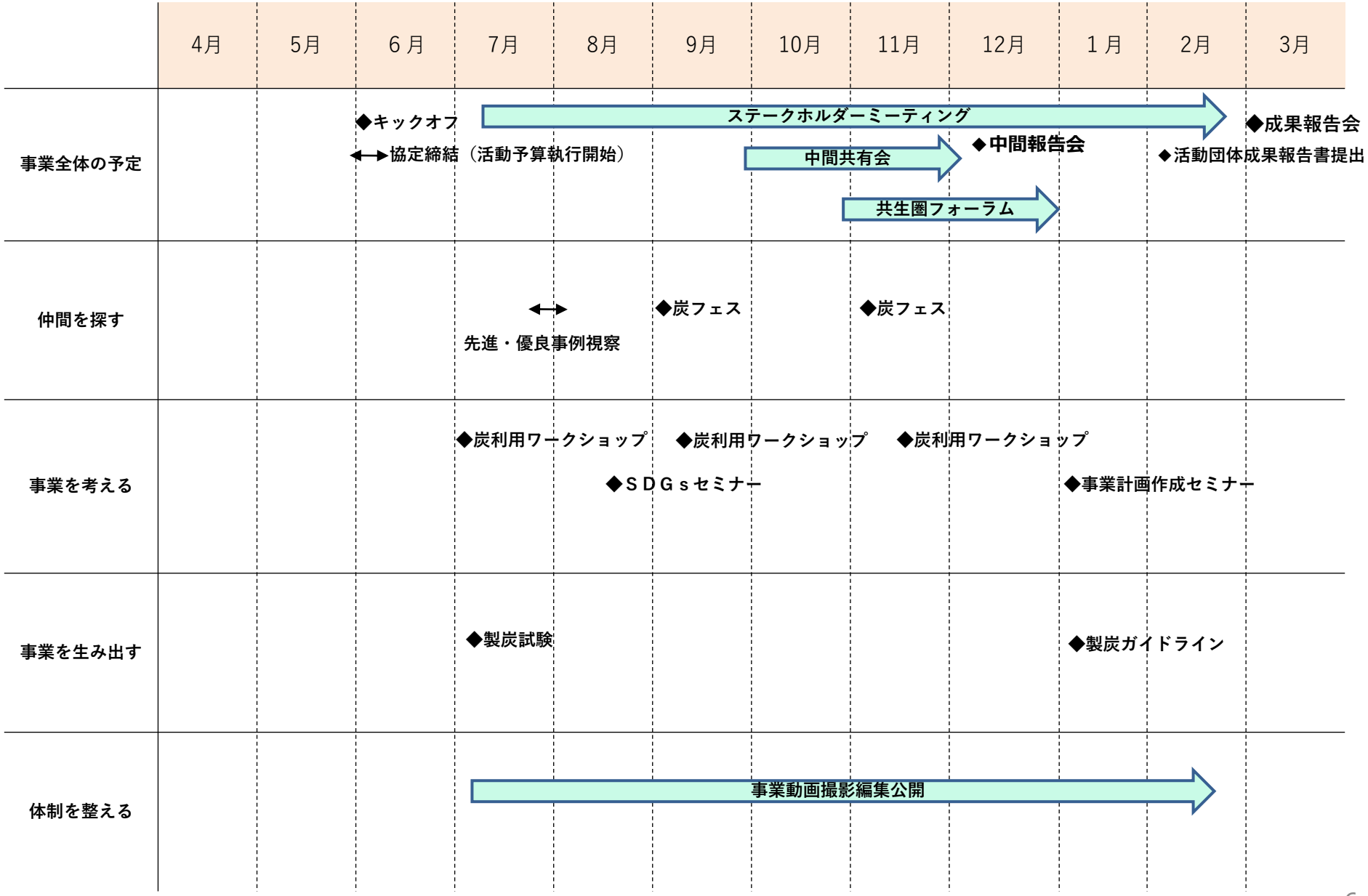
・教育関係者（地元高校）
　SDGsを中心に環境学習を通して、地域の未来をともに考える。
・バイオチャーに取り組む事業者
　バイオチャーを中心とする製炭事業で環境事業に取り組むネットワーク形成

←想定している課題・阻害要因

○多様な人材が働く場の確保
　環境保全を障がい者就労で進める際の、特性、適性に応じた作業環境整備
　（マニュアル化）

○大量の未利用資源の有効化
　さまざまな未利用資源の炭化技術の確立と習得

年間スケジュール


4月
5月
6 月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1 月
2月
3月
事業全体の予定
◆キックオフ
協定締結（活動予算執行開始）
ステークホルダーミーティング
中間共有会
共生圏フォーラム
◆中間報告会
◆活動団体成果報告書提出
◆成果報告会
仲間を探す
先進・優良事例視察
◆炭フェス
◆炭フェス
事業を考える
◆炭利用ワークショップ
◆炭利用ワークショップ
◆炭利用ワークショップ
◆ＳＤＧｓセミナー
◆事業計画作成セミナー
事業を生み出す
◆製炭試験
◆製炭ガイドライン
体制を整える
事業動画撮影編集公開